

未来の宇和島産業への手紙



最終回

新しい販路開拓 にむけて

今回は、宇和島の産品を県外・海外へPRするための新たな取り組みをレポートします。

なお、「未来の宇和島産業への手紙」は今回で最終回です。ここで植えた小さな種が、未来の宇和島で大きく花開くように、私たちはこれからも頑張っていきます。1年間ありがとうございました。



伊達にゃんよ (左)
愛川町のキャラクターあいちちゃん (右)

<問合先> 産業未来創造室

☎24-1111 内線2833

<所在地> 市役所 8階

宇和島産品の販路拡大活動

1月24日(土)・25日(日)に東京都八王子市を中心に店舗展開しているスーパーマーケットの全29店舗で「えひめ宇和島うまいもん!フェア」を開催しました。そのうち、東京都八王子市の店舗と神奈川県愛川町の店舗では、市内水産会社の従業員とJAえひめ南の担当者、市職員がお客様に直接PR。マダイ・ブリ・ポンカン・イヨカン・じゃこ天を宇和島市イチオシの商品として販売しました。愛川町の店舗では「伊達にゃんよ」と愛川町のキャラクター「あいちちゃん」のコラボレーションに加えて、愛川町長と宇和島市長のトップセールスも実現しました。

また、鯛めし・ポンカン・じゃこ天の試食販売を実施。お客様に「鯛めしを試食しませんか!」と声をかけると、ほとんどの方は鯛の炊き込みご飯をイメージされるようで、生の鯛の刺身をご飯にのせて食べる初めての「宇和島鯛めし」に驚かれるばかりでした。

しかし、認知度の高いブリの方が、試食を提供をしていないにも関わらず売れ行きが良いという結果に。ポンカンなどの関東ではなじみの薄い商品をいかに浸透させて行くかが販路拡大の鍵となるという教訓を得ることができました。

商品の多様性・充実度が高い「北海道フェア」は、デパートやスーパーでもよく見られますが、市の単位でフェアを開催することは全国的にも珍しいとの好評もいただ

き、次年度以降はさらに充実させていきたいと考えています。

宇和島から木材の輸出が始まります

産業未来創造室の新たな取り組みとして、木材の輸出に取り組んでいます。この取り組みの発案者は木材を扱う商社に勤務経験のある石橋市長です。宇和島市は、総面積の約7割を森林が占め、人工林のスギ、ヒノキの大半が伐採の適期を迎えています。また、近年の円安による影響もありアジアへの木材輸出量が国内各地で急増しています。

このような状況の中、友好都市として交流を行っている中国浙江省象山县でも、木材の流通経路や建築事情を調査し、宇和島市の木材輸出の可能性について検討しました。

こうした取り組みの中から、東京に本社のある企業の協力により宇和島港から韓国に向けての木材の輸出が3月下旬から開始される見込みになりました。今後も継続的な事業展開となるよう、伐採から輸出までの体制づくりに注力して、林業の活性化を目指したいと考えています。



津島町の木材伐採現場の様子